

職員研修

教職員の資質能力を高める校内研修の充実

I 研究の内容

1 研究のねらい

甲州市・山梨市では、ともに市をあげて児童生徒の学力向上に取り組んでいる。甲州市では「学力向上プロジェクト」を、山梨市では「学力向上推進委員会」を立ち上げ、それぞれ小中学校が中心となり、地域住民と連携しながら各校の実態に即した形で学力向上の取組をおこなっている。各校においては、「生きる力」の育成を目指して様々な教育実践をおこなっているところであるが、その成否は教職員の資質能力や意欲に負うところが大きく、そのため教職員の研修を通じてその力量を高める努力が求められている。東山梨支部では、各中学校の校内研修の内容や実態を把握し、教師の資質能力を高める校内研修にするための具体的な取組を通して、その過程における校長の果たすべき役割や関わり方を明らかにしていきたい。

2 研究計画

教職員の資質能力を高める校内研修の充実について、校長としての関わり方に関する実態調査により各校における「研修内容」「具体的な取組」「校長の関わり」など各校の具体的な実践例を把握したり、情報交換をしたりして二年計画で研究を行い、その共通課題や成果等を分析・考察する。

平成26年度（一年次）

- ア 教職員の資質能力を高める校内研修の充実について実態調査
- イ 具体的な実践例（松里中学校の実践例を中心に）による学習会

平成27年度（二年次）

- ア 6月の山梨大会に向けての研究のまとめと発表の準備。
- イ 教職員の資質能力を高める各校の実践について情報交換し、研究を深める。

3 本年度の研究経過

- 5月 ・今年度の研究の方向性と具体的研究内容の確認
- 6月 ・アンケート内容の確認と実施
- 7～8月 ・校内研修の実践発表
研究の中間まとめ・松里中の実践（内田校長先生）
- 10月 ・11月プレ発表の内容の確認・修正
- 11月 ・県校長会研究集会～プレ発表
- 12～3月 ・変更・追加内容の検討 研究紀要の内容検討 研究の総括他

II 成果と課題

1 アンケート内容について

東山各中学校における校内研修の現状と校長の役割・関わりについて以下の項目について記述によるアンケート調査を実施した。

- ①校内計画作成の段階での校長の関わり
- ②校内研修における校長の指導・助言

- ③教職員の意識改革促進のための指導 ④教職員の適材適所への配置
⑤教職員が力を発揮できる校内研修組織⑥個々の教職員への校長としての働きかけ
⑦教育環境の整備 ⑧校長の関わりとして大切なこと

2 研究の視点に関連した校長の関わり

アンケート結果を踏まえ、各校の実践研究から明らかになったことを以下にあげる。「教職員の資質能力向上」と「生徒の生きる力の向上」はセットであり、校内研修で教職員が理念を共有し、実践的研究を行うことが最も重要なことだと考える。そのために、校長自らが校内研修に深く関わり強力なリーダーシップを発揮することが必要である。校長は常に、広く一般社会の視点（経済財政的視点・科学技術的視点・一般消費者的視点）を取り入れながら、最新の教育情報、教育動向、他校や他県で行われている実践などを新聞・教育書籍・教育雑誌などにより把握し、教職員に提示する必要がある。そうすることにより校内研修や実践の妥当性が確かなものとなり、取り組む意欲を向上、継続させることになる。

校長は教職員の資質能力や特性を把握した上で、課題点や改善点を明確に示してやることにより教職員が主体的・意欲的な教育実践を行うことができるようになる。教職員間の人間関係を密にして意見交換など自由に行える職場づくりが大切であり、校長には教職員間の同僚性を高めたり、何でも相談しあえる人間関係を構築したり、やる気の出る学校づくりを進めたりして職場を活性化させる努力と工夫が求められる。

教職員の資質能力を高めていくことは、教育危機を乗り越えていく上で最重要課題である。そのためにも校長が学びの率先者としての姿勢を示し、教職員の意識改革を図り、一丸となった学校づくりをしていくことが必要である。

3 松里中学校の実践から

① 校内研究の方向性と校長の関わりについて

今年度の校内研究の計画作成にあたり、前年度の学校評価、全国学力学習状況調査・県学力把握調査の結果、校内研究の成果と課題を分析した。その分析を元に、今年度は学力向上の手立てを研究の中心にすえることとした。同時に、学力向上策の素案を作成し、研究主任と打ち合わせ、校内研究において全職員に方向性を提示した。

② 松中ノートについて

家庭学習の習慣を定着させるため、本年度より全校統一の松中ノート（校長考案）に取り組んだ。生徒の学習規律・家庭学習については授業構造について共通理解が図られ、全校体制で取り組むことができた。保護者も巻き込むことで、家庭学習の習慣化や生徒と保護者のコミュニケーションの上でも有効性が確認できた。

Ⅲ 課題

教職員の資質向上と生徒の生きる力の向上は密接に関連し、校内研修で教職員が理念を共有し、実践的研究を行うことが重要であること、そのため校長自らが計画段階から実践に至るまで校内研修に深く関わり強力なリーダーシップを発揮することが必要である。

次年度は東山梨支部の各中学校における校内研修の現状と校長の役割・関わりについて様々な観点から各校の実践を中心に更に研究を深めていく必要がある。